

寺子屋方丈舎フリースクールの活動報告

●2019年9月分●

2019年10月11日（金）実施

作成：大関勇氣

【今月のテーマ】

社会とのつながりを作る

（目的）

こどもの横の繋がりが広がり、より太くなった。相互の関係性が形成されたことで、来室することの安心感が醸成され、その安心感がモチベーションに繋がっている。今後は、こどもたちの関心が社会へと広がるようなプログラム作りも目指していく。

【9月の動き】

- 新規利用者が2名増加。
- 体育、フットサルのプログラムを継続し、体力づくりと相互のコミュニケーションに取り組む。
- 9/28の環境フェスタへの出店に向けた活動が主となった。事業への参画を通して、こどもたち同士が支え合いながら成果を出していくことを経験する学びのプログラムを実施。

【次回への取り組みと課題】

こども同士の関係性構築に寄与する活動は十分に実施できている一方、こどもの能動的な学びにつながるプログラムが不足しており、個々の来室モチベーションの伸びに限界が見られ始めている。よって、各こどものニーズに特化したプログラムと、こどもの興味関心を掘り下げ、こどもが自身の関心を見つめることができる学習プログラムを設計・実施していく必要がある。そのため、こどもミーティングの時間を利用したブレインストーミング等のワークを実施し、こどもたちが楽しみながら自身の興味関心を発信できる場を用意するなど、こどものニーズ調査を徹底していく。その調査によって把握したニーズに沿ってプログラムを設計することにより、こどもの能動的な学びにつなげていく。



【子どもの様子と変化】

子どもの現状	スタッフの対応	活動内容 (実施日時)	特徴的な出来事、子どもの反応	こどもの変化
やりたいことを企画、提案する。 環境フェスタ出店向け、協議のうえ準備を進める。 ミーティングの内容を受け、調理の他、看板・ポップ作りなどを実施。	こどもの興味関心があることを聞き取り、理解する。子どもそれぞれの関心に合わせて、プログラム設計を行う。保護者がその関心を理解していないときは伝えてゆく。	こどもミーティング (火曜日12:00~13:00)	ミーティングとその後の活動を通し、調理・看板作り・食材の価格調査・当日の接客など、こどもそれぞれが自身に向いている方法で活動に参加していた。	自身ができたことと楽しかったこと、他のこどもがしてくれて助かったと感じたことなどを振り返る。 自分のことだけでなく、こどもがお互いにフィードバックし合うことで、「自分が得意なことは何か」「他のこどもはどのような人間か」と、自己理解と他者理解を深める様子が見られた。
興味関心の広がりともども間の関係性の深化が見られる。 主にカードゲームの持参、ものづくりへの繋がり、ゲームや軽い室内運動を通したこども同士の交流が見られる。	興味があるものを一緒に掘り下げ、すぐに動くことも大事にする。 ゲームは子ども同士のコミュニケーションが生じるものを意識的に導入している。	遊び、趣味の時間 (毎日13:00~16:00) 学童保育の児童との交流 (火曜~金曜16時頃~)	皆で実施するためにカードゲームを購入してくるなど、こどもからの提案により始まる活動が増えている。 また、学童保育で来室する児童とともに遊べるよう工夫する様子も見られた。 一方、遊びの時間をきっかけにものづくりへの興味が生じるケースもあつた。	「皆での交流のために時間を使うこと」と「自身の興味のために時間を使うこと」というように、自身と他者の双方を見つめる様子が見られ始めている。
歴史上の人物についての書籍を読み、そこから得た知識のアウトプットを行う。	関心を活かせるようそのアウトプットの方法についてともに考える。	学習の時間	アウトプットの方法として、歴史上の人物の履歴書を作ろうと試みて、PCを使用して進行していた。	こどもが自身で考えたアウトプットの方法で、興味を掘り下げ学習する。

自身のペースで自学を行う。	必要に応じてアシストする。進捗の確認を定期的に行う。	子どもの時間	他のこどもの学習内容に気をかけ、教え合う・協力し合うケースがあった。	自身に合った進捗・方法での学習を模索する。
レジンやミサンガなど、ものづくりを実施する。ゲームキャラクターへの関心と結びつけ、武器などのダンボール工作を行う。	子どもと一緒に調べながら行う。子どもごとに作りたいものと制作期間、目標を決めて進行していく。	ものづくりの時間 (火曜日13:00~15:00) (水曜日11:00~12:00)	集中して行う。基本的なことから徐々にアレンジを加えて、難しいものに挑戦しようとする。また、そのために参考となる動画を探し出し、スタッフにイメージを共有する場面も見られた。	自分で目標を決め、取り組み方を思索することで、自身の興味に向き合う。成果物ができること、達成感や自信が得られる。
環境フェスタに向けて試作の時間に当てる。キーマカレー、ラスク、ラッシー、チャイのレシピを調べ、工夫を施しながら作成する。	買い出し〜調理まで、基本的に指示は出さず、子どもたちに任せる。また、環境フェスタの情報提供し、場にあった商品となるよう考える機会を作る。	飯の会 (木曜日11:00~13:00)	子どもたち自身がレシピ・調理法を調べて、実践する。また、来客者層を想定して味付けについての議論を行い、工夫を施している。	提供者視点に立つことも、来場者視点に立つことにも分かれて意見を交わしており、自然と子どもそれぞれの特徴を活かした協力の方法を模索している様子であった。
体育の時間とは別にフットサルを実施。経験の有無を問わず一定のニーズが見られている。	子どもとともにプレイをしている。また、より子どもに合った方法で実施していくために、子どもとの意見交流を行なっている段階。	フットサル部 (第一、第四土曜日 13:00~15:00)	経験者が未経験者に基礎を教えるケースが見られていた。また、よりまとまった人数が集まればチームとしての練習ができるのではないかとといった意見が出ている。	チームスポーツということもあり、コミュニケーションが活発になる。特に、子ども間でレベルに差がある中での実施ということもあり、他のこどもを慮りながら実施する様子が見られている。
バスケ、バドミントンを中心に子どもたちがその時の気持ちに合った内容でスポーツに取り組む。	子どもとともにプレイしつつ、子どもたちの意見の吸い上げを行なっている。また、それぞれの体力を勘案して休憩やプレイ時間の調整を行う。	体育の時間 (木曜日13:00~14:30)	実施時の参加者数やコンディションを鑑みて、ゲームのルールを決めるなど、提案する様子が見られた。また、新しい参加者と既存のこどものつながりの場になっている。	スポーツへの取り組みを通し、もっと楽しむためにどうすればいいかを考え、他のこどもやスタッフに提案することで、発信する力がついてきている。